



# デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.76  
Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2019.夏

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



海の学び Supported by  
ミュージアム THE NIPPON  
サポート 財団 FOUNDATION

海と日本  
PROJECT

## 第61回 企画展

# 「海の森 ～海藻がはぐくむワンダーランド～」

## <イベント開催!>

10/5 土

### 企画展オープニングイベント 「手すきおぼろ昆布実演・体験」

講師：別所 昭男（敦賀の手すき昆布職人）  
時間：1回目 10：45～12：00  
2回目 13：30～14：45  
定員：手すき体験 各回 10名（小学生以上）  
見学：自由・人数制限なし  
参加費：手すき体験 50円（保険料）、見学は無料

11/4 月

### 企画展観察会 「淡水藻類観察会」

講師：富永 孝昭（栃木県立小山城南高等学校）  
時間：10：00～12：00  
場所：太田市ほたるの里公園  
定員：20名（小学生以上）  
参加費：50円（保険料）

10/13 日

### 企画展イベント 「海藻おしぼ海藻アート教室」

講師：野田三千代（海藻おしぼ協会）  
時間：1回目 10：00～12：00  
2回目 13：30～15：30  
定員：各回 20名（小学生以上）  
参加費：550円（材料費+保険料）

11/23 土

### 企画展シンポジウム 「山・川・海のつながり ～地域の自然資源の持続可能な利用～」

講師：富塚 朋子（千葉県立中央博物館）  
宮田裕紀枝（東海村教育委員会生涯学習課）  
安類 智仁（NPO 法人片品・山と森の学校）  
清水 裕子（森林風致計画研究所）  
時間：13：30～16：00  
定員：100名（どなたでも）  
参加費：無料

10/22 火

### 企画展イベント 「海藻でしおりをつくろう」

講師：当館職員 時間：10：00～  
場所：企画展示室内  
定員：先着 10名（どなたでも） 参加費：無料

申し込み：各イベントの1ヶ月前の午前9時30分から電話予約

# 第61回 企画展 「海の森 ～海藻がはぐくむワンダーランド～」



みなさん、海藻は好きですか？海の中には、海藻の不思議な世界が広がっています。海藻の妖精・藻じゃーすたちが、海の森をご案内します！



カジメン

海藻って、海にすむ藻類のことなんだよ！



オオバモクン

ぼくたちって不思議がいっぱいなんだも〜ん！



ノリノリン

料理に使う海藻について、私が紹介するわ！



アオサン

海藻の色ってカラフルだな！



アラメン

アサクサノリの調査って大変なんだなあ...



ユッカリ

海藻おしばアートって、とってもきれいな！

わしの研究室では、山・川・海のつながり、海藻標本の作り方など、たくさんのお話を学べるのじゃ！



ヒジキング

山・川・海と旅をしてきたくんまちゃん。ボクたちやっと出会えたね！



ウチワーズさん

わたくしたちにはいろいろな形があって、おもしろいさますよ〜。

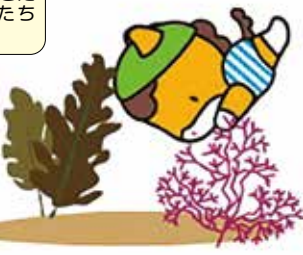
ボクは陸にすむ藻類を紹介します！群馬県にもいろいろすんでいるのですね！



アマモン



ワカメン



群馬県のマスコット「くんまちゃん」

(生物研究係 伊藤 智史)

藻じゃーすイラスト©よしのじゅんこ

## 自然のコラム 多胡石の魅力

多胡石は、約1650万年前頃、この周辺に広がっていた海の底にたまった砂が固まってできた砂岩の石材名です。同じ時代の同じ砂岩でも、石を採る場所によって、小幡石、天引石、八束石、敷石、丸山石、赤石、平井石など、異なる石材名がつけられています。高崎市吉井町の大沢川上流（かつての多胡村）で採られた砂岩のことを特に多胡石といいます。

多胡石は、赤錆色の模様が特徴的で、石材として長く楽しめる味わいをもっています。吉井町の中心部をぶらぶらと歩いてみると、多胡石は町のあちこちで使われているのがわかります。私が休日の時間を使って散歩しただけで、これだけの場所で多胡石が使われていました（図1）。その使われ方も実にさまざまで、この石が吉井町の人々に生活の一部として広く受け入れられてきたのがよくわかります（図2）。

多胡石は、ユネスコ「世界の記憶」に登録された石

碑群である上野三碑のうち国指定特別史跡の「多胡碑」にも使われた石材です。このローカルな石材を、文化や歴史、自然など、色んな切り口で楽しみたいですね。（地学研究係 菅原 久誠）



図1 吉井町中心部で見られる多胡石の分布



図2 多胡石のさまざまな用途（左から、古墳の石室、墓地の灯籠・墓石など、敷石、石垣、店内の装飾品）

2019年6月に国立科学博物館・門田裕一名誉研究員によって、キンポウゲ科トリカブト属の新種・サンチュウトリカブト *Aconitum ohmorii* Kadota が発表されました(植物研究雑誌, 94: 153-158)。群馬県産標本に基づく維管束植物の新種は、みなかみ町湯掛産の標本に基づく1973年のユビソヤナギ *Salix hukaoana* Kimura 以来です(雑種では、それ以後に発表されたものにホタカワラビ、フカオヤナギ、ドアイヤナギがあります)。



図1 サンチュウトリカブト

サンチュウトリカブトの名前は、多野郡神流町から上野村にかけての旧名である山中<sup>さんちゅう</sup>由来しており、地質学の山中地溝帯や恐竜のサンチュウリュウの名前のもとになった地域として有名です。2009年10月16日に、筆者が上野村の石灰岩地で、既知の種とは異なる性質をもったトリカブトを採集し、門田裕一博士(当時国立科学博物館研究員)に連絡したことが、新種として発表される第一歩でした。翌年の2010年には門田博士とともに現地調査を行いました。当時、当館は上野村地域の調査研究を行



図2 サンチュウトリカブトの花と花柄 開出毛が目立つ。

っており、同様の性質をもったトリカブトの探索を行いました。その結果、サンチュウトリカブトは上野村の石灰岩地2カ所から記録されました。

サンチュウトリカブトは、花柄に開出する(茎や葉に直角に生える)

毛が密生し、茎の下部の葉は深裂するが、上部の葉は中裂から浅裂し、葉に二型性を示す特徴があります。花柄の毛の性質はホソバトリカブト、センウズモドキ、オンタケブシ、ウゼントリカブトと共通しています。しかし、ホソバトリカブトの茎には曲がった毛が生えること、センウズモドキの葉は茎の上部でも深裂すること、葉が中裂するオンタケブシやウゼントリカブトは葉の鋸歯の先端が尖ることでサンチュウトリカブトと識別できます。このほか、サンチュウトリカブトの花の上萼片がこの仲間にしては低く<sup>くはし</sup>嘴が短い点や、葉の裏の毛が長い点も特徴的です。ただし、サンチュウトリカブトはヤマトリカブトやカワチブシとの雑種をつくることがあり、これらは花柄の毛の曲がり方や密度で識別できます。

サンチュウトリカブトは、石灰岩地の断崖や転石が供給される急斜面に限って生育します。サンチュウトリカブトは、このような極端な環境に限って温存され、離れた場所ではヤマトリカブトやカワチブシと交雑していったと考えられます。サンチュウトリカブトは生育地点に限られ、特殊な生育環境に依存するために個体数も少なく、またシカによる食害の影響もあって絶滅危惧種に該当すると考えられます。

\*サンチュウトリカブトを含む奥多野地域のトリカブトの詳細は、群馬県立自然史博物館自然史調査報告 第7号(当館のHPから、「出版・印刷物」、さらに「調査報告」をクリックして下さい)を参考にして下さい。

(生物研究係 大森 威宏)



図3 サンチュウトリカブトの花弁 センウズモドキやヤマトリカブトに比べて舷部は細く、連続的に距に移行する。



図4 サンチュウトリカブトのめしべ 多毛で短い子房。果実も小型。



# 博物館での尾瀬学校の学習



尾瀬には美しい自然や貴重な生態系があり、「ごみ持ち帰り運動」や「木道の整備」などさまざまな自然を守る取組が行われています。そのため、群馬県では尾瀬を優れた環境教育の場と考え、群馬の子供達が自然体験を通して、身近な自然を守ることの大切さ、地球の環境を守ることの大切さや、ふるさとを愛する心を育んでもらいたいと願い尾瀬学校を推進しています。

博物館には、毎年尾瀬学校での学習を深めるための事前学習として県内の小中学校が訪れています。博物館には、群馬の自然についてのコーナーがあります。そのコーナーには、尾瀬についての展示があり、尾瀬のジオラマや尾瀬シアターを活用しながら学ぶことができます。また、展示解説員による、尾瀬に係る解説も聞くことができます。解説では、2007年に指定された背景を含め尾瀬国立公園についての解説や、火山活動による噴出物や岩なだれによってせき止められることでできた尾瀬沼や湿地の歴史、植物が蓄積されて形成された泥炭層、湿原を登山者の踏みつけから守りゴミを持ち帰るようにする自然環境の保護の工夫、ミズバショウや食虫植物のナガバノモウセンゴケなど尾瀬の植物等について行っています。これらの解説は、ジオラマや展示物等を使って1団体15分程度の時間で行っています。

今年度から、尾瀬の解説を受けた学校には、尾瀬に行く日程に併せて尾瀬の花ごよみを春、初夏、夏の3種類のうちから1つ配布しています。

また、尾瀬学校当日に荒天等で尾瀬に行くことができなくなった場合にも、博物館で学習することができます。学校で依頼した尾瀬ガイドが博物館の展示物を使って解説を行っています。多くの展示物から尾瀬の特徴を知ることができます。

(教育普及係 石川 直紀)



## 利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)  
 ■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)  
 ■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	510円 (410円)	300円 (240円)
第61回企画展開催時 (R1.10.5～12.1)	720円 (570円)	410円 (320円)

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。  
 ※( )内は、有料者20名以上の団体料金となります。

## 群馬県立自然史博物館だより Demeter No.76

編集・発行 群馬県立自然史博物館  
 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1  
 Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250  
 ホームページ  
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。